

◆著者紹介

高橋 明弘 (たかはし あきひろ)

1954年 東京生まれ
1978年 日本大学法学部法律学科卒業
民間企業・事業所で勤務
1992年 日本大学大学院法学研究科博士前期課程修了（民法専攻）
1998年 大東文化大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得（経済法専攻）
現在 東京都市大学、神田外語大学、山梨学院大学で講師兼任、国税庁税務大学校民法（親族・相続編）講義担当教官
専攻 経済法（知的財産権含む）、民法、産業組織論
〔著書〕

『知的財産の研究開発過程における競争法理の意義—知的財産権概念の私的側面と社会的側面』（国際書院、2003年）〔単著〕
『現代経済法』（法律文化社、2010年）〔単著〕
『財産法入門』（学陽書房、2010年）〔共著〕
『下請の法律実務』（三協法規出版、2011年）〔共著〕
『知財イノベーションと市場戦略イノベーション』（国際書院、2012年）〔単著〕
『下請の法律実務』（三協法規出版改訂版、2012年）〔共著〕
『法学への招待—社会生活と法』（法律文化社、2013年）〔単著〕
『景品・表示の法実務』（三協法規出版、2014年）〔共著〕

〔論文〕

「日本の独占禁止法政策およびその理論の選択」（横浜商大論集41巻第1号、2007年）
「革新を起動させる競争メカニズム因子およびその独占禁止法適用過程—SCPパラダイム・シカゴパラダイム・MACパラダイム」（横浜商大論集45巻第2号、2012年）
「知財利用事業に適用する独占禁止法の一定の取引分野要件の展望—CapabilityからDynamic Capabilityへ」（日本大学知財ジャーナル Vol. 8、2015年）